

ママの“キラキラ”を応援！



MAGAZINE

MEDIA GUIDE

GAIN
GATHER AND ANALYZE INFORMATION

メディア事業部

☎ 052・243・3510

中日新聞社主催ハッピーママフェスタ公式フリーマガジン



家族のCEO＝ママの成長と輝きを創出し、地域を、日本をもっと元気に!

1年に1度のママたちのキラキライベント「ハッピーママフェスタ」。

その公式マガジンも、ママたちの成長と輝きをバックアップする内容でお届けします。

子育ても「追われる」のではなく、元気と笑顔がセットになれば、家族も地域も、そして日本中がハッピーに!

そんなママに、役立つニュースが得られ、情報を交換する場となるのが『ハッピー ママ マガジン』。

ママたちの声を拾い上げ、それをよりよい情報として発信する、“キラキラ”が散りばめられた一冊です。



Charm チャームポイント

★明快・明確なセグメント

読者は、乳幼児～未就学の子供を持つママたち! アクティブに活躍・活動するママたちにセグメントした販売促進やマーケティングができます。口コミ効果も期待できます。

★圧倒的な配布力

中日新聞社、「ハッピーママフェスタ」イベントとのユニットにより、アクティブママサークル、東海エリアの幼稚園・保育園に直接配送。無駄なく確実にターゲットへのアプローチができます。

★ハイレベルな誌面クオリティ

「月刊KELLY」「メナージュケリー」を出版する弊社だからこその豊富な情報力、高い企画編集力とデザインワークを駆使した魅力的な誌面作り。

★ママたちと作る、読者参加発信マガジン

ママが「今、私たちが欲しい情報」を選び、まとめ、発信。編集部が、その情報を精査し、作り手となる読者ママをサポート! 多くのママが媒体作りに参加することで、媒体への愛着から反響も期待できます。

★中日新聞社主催イベント「ハッピーママフェスタ」の公式フリーマガジン

東海エリアにおいて、圧倒的な認知・信頼の高い中日新聞社。その主催イベントの公式マガジンとして幅広いアクティブママたちへのダイレクトPRが可能。

Profile 媒体概要

□創刊／2014／3／1

□発行日／年2回・1日発行
(2月・10月予定)

□発行部数／15万部

□仕様／B5判・マガジンタイプ
32ページ～ 無料

□配布先／愛知県・岐阜県・三重県下の私立幼稚園・私立保育園、
(社)岐阜県私立幼稚園連合会・(社)三重県私立幼稚園協会公認配布。

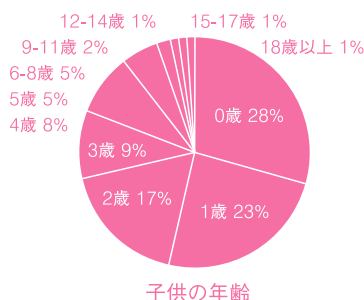
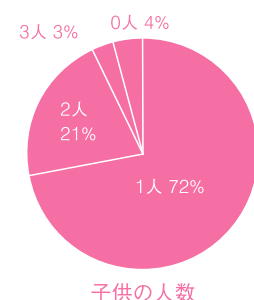
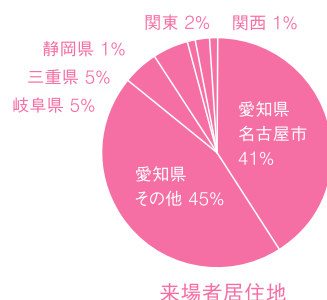
東海エリアのママサークル(100か所)・名古屋市内小児科・産婦人科・
中日新聞販売店に郵送

□配布方法／上記幼稚園、保育園、ママサークル、クリニック、中日新聞に直接発送

□発行・運営・編集・制作／株式会社ゲイン

□協力／中日新聞社、日本財団

Data (2013.3月開催ハッピーママフェスタ来場アンケートより) 参考データ



AD Price

広告掲載料金

掲載場所(サイズ H×W)	1回掲載	年間2回掲載	年間3回掲載
表4 (257×172)	880,000	704,000	616,000
表2見開き (257×364)	1,320,000	1,056,000	924,000
表2 (257×182)	770,000	616,000	539,000
表3 (257×182)	605,000	484,000	423,500
フロント見開き (257×364)	1,100,000	880,000	770,000
本文見開き (257×364)	990,000	792,000	693,000
本文1P (257×182)	550,000	440,000	385,000
本文1/2P (115×155)	275,000	220,000	192,500
本文記事下1/4P (115×75)	165,000	132,000	115,500
編集タイアップ見開き (257×364)	1,100,000	880,000	770,000
編集タイアップ1P (257×182)	660,000	528,000	462,000

※上記金額に制作費は含まれておりません。編集タイアップの場合は上記掲載費プラス制作費がかかります。

※SP連動タイアップ広告、イベント協賛などの料金は、個別にお見積りいたします。

※上記金額に消費税は含まれております。

広告掲載についての諸注意事項

- 完全データでの入稿日は別途スケジュールをご参照ください。
- お申込み後の広告掲載中止はキャンセル料をいただきます。
- 広告企画によっては広告料金が異なる場合がございます。
- 広告内容によっては掲載をお断りする場合がございます。
- ハッピーママ マガジンに掲載する広告ハッピーママ マガジン広告掲載基準に基づきます。
(詳細は別途基準説明書をご用意しております。)
- ページ指定にはページ指定料15%が別途必要になります。

Option

SP連動タイアップ企画、ママサークルサンプリング企画など

本誌とあわせて、イベント実施や提携ママサークルへの商品サンプリングも可能。
誌面のみならず東海エリアのアクティブママを動かす提案ができます。

※詳しくは営業担当までお問い合わせください。

Page Sample

ハッピーママ マガジンだからこその誌面展開

編集ページ



ママサークル他、東海エリアのアクティブなママたちが企画から参加し、誌面にも登場

編集タイアップ広告



編集ページのテイストに合わせた魅力的なページで読者にアプローチ。読者モデルが登場し商品紹介も。

定型広告企画(クリニック連合広告など)



広告でありながら記事テイストのため自然な流れで読者へ訴求できます。(※クリニック連合広告企画書は別途有)

その他別冊綴り込み、チラシはさみこみ、増刊号発行、誌面抜き刷り印刷など様々な展開が可能です。詳しくは営業担当までお問い合わせください。

日本財団「ママの笑顔を増やすプロジェクト」と、 ハッピーママフェスタ公式マガジン 「ハッピーママ マガジン」の志は同じ。 キラキラなママを増やしていきます！

日本財団会長

モーハウス代表・子連れスタイル推進協会代表理事

笹川陽平さん × 光畑由佳さん

「ハッピーママフェスタ」の共催「日本財団」は、
シングルマザー、ワーキングマザー、被災地のママ、
産前・産後のママなどを、みんなで支え、
励まし合う『ママの笑顔を増やすプロジェクト』を行っています。
「ハッピーママ マガジン」創刊にあたり、
100万人のママの笑顔を目指す日本財団の笹川陽平会長と、
モーハウス代表・子連れスタイル推進協会の代表理事の光畑由佳さんから、
メッセージが届きました。

笹川 私には4人の息子がいるものの、育児は妻に任せきりでした。ですから、大したことは言えないのですが、子どもは、3歳まではできるだけ人の体に密着させることが大事だと思っています。その相手が母親だと、さらに良いでしょうね。

光畑 そうですね。実際、「できるだけ一緒にいたい」とおっしゃるお母さんは、多いです。私も「一緒にいたい」から、ごく自然に子ども連れで仕事をしていました。昔のお母さんは、働く傍らで子育てをしているのが当たり前でしたから、特別なことだとは思わなかったのですが、「そういう働き方もあるのね!」と、驚かれました。だったら、そういうスタイルを発信していこうと。現在、私の会社は、「子連れ出勤」という就業スタイルを採用しています。青山の授乳服のお店も、スタッフが赤ちゃんを抱っこしながら接客していますよ。

笹川 私は、幼い頃の、母親におぶられたときの感触をとて覚えています。支えてくれた手の感じや背中のおおきさなどをね。「お母さんって大きいな強いな」と、思ったもの

「いい加減」ではなく、「良い加減」。
適度に力を抜いて、
育児を楽しみましょう(光畑さん)



です。それだけで、母は子どもに安心感を与えられる。母親が本来持っているものだけで、子どもは十分育てられる。でも、最近のママさんは、頭で何でも物事を考える傾向にあるように感じます。

光畑 それは同感です。今は、育児に便利なものたくさん出回っている
ので、情報に惑わされる

ことが多い。私自身もそうでしたね。

笹川 ママさんには、自らの「母親としての力」を信じて、主体性を持ってほしいですね。

光畑 はい。もっと「良い加減」で、楽しく育児に向き合ってもらいたいです。「いい加減」ではなく、「ちょうど良いぐらいの加減」で。

笹川 子どもは、かつては社会の子どもで、みんなで育てるものでした。社会の共有の財産ですから、時には、ご近所に「2、3時間、子どもを預かってください」と頼めば、面倒を見てくれたもの

です。それが、ここ数十年で、子育てしにくい社会になってしまった。この点については、日本は諸外国と比べると未成熟です。現代の日本のママさんが、心から「育児は楽しい!」とを感じるためには、環境整備も非常に必要だと思います。

笹川陽平(ささかわようへい)

1939年生まれ。明治大学政治経済学部卒。現在、日本財団会長、WHOハンセン病制圧特別大使、ハンセン病人権啓発大使、ミャンマー少数民族福祉向上大使などを務める。『この国、あの国』(産経新聞社)、『人間として生きてほしいから』(海竜社)など著書多数。日本財団では、「みんなが、みんなを支える社会」を目指して、一人ひとりが自分にできることで社会を変える“ソーシャルイノベーション”の輪を広げている。

光畑由佳(みつはたゆか)

お茶の水女子大学被服学科卒。株式会社バルコで美術企画を担当した後、建築関係の編集者を経て、1997年に二人目の子どもを出産。その後、授乳服の製作を開始し、お産やおっぱいをサポートする活動「モーハウス」をスタート。子育てと社会が共存する環境を目指す「子連れスタイル推進協会」代表。三児の母。



日本は、子育てを取り巻く環境が未成熟。
ママたちが個々の主体性を持てる
社会整備が必要ですね(笹川会長)



Call 広告のお申込み・お問い合わせ

☐ 株式会社ゲイン メディア事業部
〒460-0011 名古屋市中区大須3-8-1
TEL 052・243・3510 FAX 052・243・3515

☐ 株式会社ゲイン 東京オフィス
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル2階245区
TEL 03・6206・3354 FAX 03・6206・3364